

## 「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	名古屋大学	整理番号	1809
プログラム名称	トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム		
プログラム責任者	藤巻 朗	プログラムコーディネーター	山口 茂弘

### (評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。</li> <li><input type="checkbox"/> B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</li> <li><input type="checkbox"/> C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。</li> <li><input type="checkbox"/> D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。</li> </ul> <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、博士課程推進機構を中心としたリーディングプログラムと卓越大学院プログラム間の情報共有と意思決定等の統括、卓越連絡会議によって卓越プログラム間の連携が図られている。学生の研究成果についても、目標を十分に達成できている。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、企業研究者による講義やスキルセミナーの実施、女性研究者のためのメンター制度、GTR 同窓会の設立検討等、多様なキャリアパスについて学ぶ機会・仕組みが整備されており、学修成果の記録と振り返りや就職活動等のための eポートフォリオの活用も進んでいる。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、融合研究を軸に組織的かつ密接な指導・支援体制が構築されており、副指導教員やメンターからの指導、海外研究者とのオンラインを通じた学生自身の研究に関する議論の機会等も提供されている。</p> <p>優秀な学生の獲得については、海外学生を含めた秋入学審査の実施に加え、コロナ禍で入学が困難な学生への審査時期変更やオンライン審査など、学生の状況を鑑みて柔軟に対応している。また、複数の卓越大学院プログラムによる合同リクルート等により優秀な学生獲得の工夫と努力を行っている。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、複数部局の教員によるQE1、QE2、多角的な視点から行われる学位審査、QEの不合格者に対する融合研究に関する興味喚起や指導等の支援や再挑戦の機会提供、ダブルメンターによる研究力の評価が実施されており、主体性を重んじる院生企画の充実や、学生間で体験共有や助言を行う交流の機</p>
--

会の拡充も図られている。

事業の継続・発展については、総長のリーダーシップの下、人的・財政的支援と研究・教育一体となった教育研究基盤の強化を推進している。